



先日フィリピンの子どもたちの初聖体が行われました。

ミサの前に初めてのゆるしの秘跡を受けます。事前に準備してくるよう伝えていましたが、直前になると皆緊張しているようでした。小学生に交じって、一人高校生の女の子と一緒に初聖体を受けることになっていて、じゃんけんの結果、1番目にゆるしの秘跡を受けることになりました。

数分後告解室から出てきた彼女に感想を聞くと、「なんかすごかった」と一言。何がどうすごかったのかを聞くと、「あの部屋に自分一人しかいないような感じがして、神様に直接ゆるしてもらったような気がした」という答えが返ってきました。

神様と二人きりで、親密な時間を過ごすことができたことは、本当にうらやましいことです。

これからの彼女の信仰生活に、この体験は大きく影響してくるのでは、と改めて初聖体の喜びを強く感じました。



+++++

初聖体おめでとう

6月22日(日)「キリストの聖体」の主日のミサの中での初聖体が行われました。

7月6日(日)英語ミサの中で、4人の子ども達の初聖体が行われました。

共に心を合わせて、子ども達のこれからの信仰生活のために祈り、見守りましょう。



内容【初聖体おめでとう】【信徒委員会】平和旬間行事参加者募集・聖年の巡礼旅行
【典礼部】聖母被昇天ミサ【地区部会】感謝の集い【震災復興カレーの会】
【巡礼の原稿募集】【広報部】報告とお詫び【ふりかえって】恵みのうちに30年の歩み
【『希望は欺かない読書会』の要約】【サモア～主によばれて(41)】

+++++
<信徒委員会・各部からのお知らせ>
+++++

<信徒委員会より>

*さいたま教区東ブロックの平和旬間

行事参加者募集

8月9日(土)13:00~上尾教会(駐車場なし)
広島原爆被害を受けた方の証言を聞きます。戦後80年が経過し、生の声を聞くことができる最後のチャンスかもしれません。ふるってご参加ください。

(受付に参加申込書)

*聖年の巡礼旅行

上尾教会と合同で11月初旬に巡礼旅行を計画しています。貸し切りバスで2つの教会(松が峰・太田)を訪れる予定です。

*詳細が決まり次第、参加者を募ります。

<典礼部より>

*聖母被昇天ミサ

8月15日(金)11:00~

10:00からロザリオの祈りがあります。

教会みんなで一緒にロザリオの祈りをする機会はなかなかありませんので、ぜひご参加ください。

<地区部より>

感謝の集いを9月14日に予定しています。詳細は追ってご案内します。

+++++
<震災復興カレーの会より>
+++++

皆さまに、いつも召し上がっていただき、ありがとうございます。

お米や野菜、又献金をいただき、重ねて御礼申し上げます。

皆様のお支えの下、何事もなく無事に続けられていることに感謝しております。

ご協力いただいた献金は271,991円となりました。これをカリタスジャパンに270,000円寄付させていただきました。

8月9日のカレーはお休みします。また10月から再開しますので、ご協力をお願いします。

ご協力をいただいた期間 2024年4~7月・10~12月 2025年1月~7月

+++++
<巡礼の原稿を募集します>
+++++

今年は聖年-巡礼の年です。以前の聖年に訪れた教会の思い出や、今年訪れた教会の記録、感想等、ご自由にお書きになって投稿してください。(600字まで)手書きの物は受付に、データは以下のメールアドレスに送ってください。お待ちしております。

一階ロビーに、大宮教会の十字架の道行を制作した至門遥さん(本名 北村紘之さん/伊奈町)による制作のエピソード(以前教会誌に掲載した物)のコピーを置きます。ご興味のある方はぜひお読みください。

ご自分で原稿を書くことが難しいという方は、広報部員が聞き取りをして、代わりに原稿を書きます。ご希望の方は、気軽にお申し付けください。

槻田

+++++
<ホームページ改ざんの報告とお詫び>
+++++

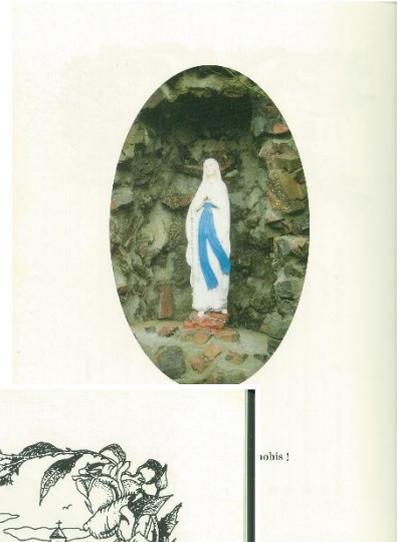
広報部では、カトリック大宮教会のホームページを運用管理しています。7月12日に外部からの不正アクセスがあり、大宮教会のホームページにアクセスすると偽通販サイトが表示されるように改ざんされました。

7月13日夜に発覚し、7月14日14時に復旧しました。この不正アクセスにより電子メールアドレスなどは流出していません。皆様にご迷惑をおかけし、ここにご報告とお詫びを申し上げます。引き続きセキュリティ対策の強化を行ってまいります。

【広報部】

ふりかえって

恵みのうちに 30年の歩み



30周年記念誌

目次

年表 三十年のあゆみ……………46

資料編

教区委員会年間……………46

教会年報編……………55

教会年間行事内容……………57

教会年報編……………58

教会司牧の推移……………59

教会司牧の受洗者・受洗者数の推移……………60

教会司牧の自覚……………61

教会司牧の生涯……………61

教会司牧の目的……………61

幼少児童の目的……………61

編纂後記……………61

本誌の発行にあたって……………61

目次

巻頭言……………

大宮教区創立三十周年を記念して……………

歴代の司牧……………

歴代司牧のシスター……………

歴代の教区委員長……………

プロシスター・チーム……………

現在の教区委員会……………

未来へ向って……………

アンケート あなたにとっての信仰とはなにか……………

A. 個人について……………

B. 家庭について……………

C. 大宮教会について……………

D. 社会教会について……………

「聖」の意味……………

三十年のアルバム……………



1961年12月、初代主任司祭塚本神父退任、後任として山根神父就任
(聖堂がまだ建てられていない)



カトリック大宮教会正面 (1990年12月)



集会室と前庭 (1990年12月)

希望のことば：

私達キリスト者は信仰によって義とされ、神の栄光に与る希望を誇りにしています。それは死んで復活したイエス・キリストの福音、すなわち、約束を実現し、栄光へと導く、愛に基づいた欺くことのない希望です。信仰に基づき、愛によって養われる希望は、困難によってくじかれることはありません。

希望の道：

キリスト者の人生は、目的地である主キリストとの出会いを垣間見せてくれるかけがえのない伴侶、すなわち希望を養い強める絶好の機会をも必要とする旅路です。聖霊は歴史を旅する教会と絶えず歩みを共にし、信じる人々に希望の光を注いでくださいます。紀元1300年の最初の聖年の公布以前から、神のゆるしの恵みが、神の忠実な聖なる民に豊かに注がれて来ました。巡礼所を訪問する人々への大いなる「ゆるし」や免償の恵みです。

2025年の聖年は、これまでの恵みの行事のつらなりの中にあり、キリストにおける救いという確かな希望を心に呼び起こす、神の愛の生きた体験をもたらします。

希望のしるし：

私達は、希望を神の恵みからくみ取ることに加え、神様が私達に差し出す、時のしるしの中にも希望を再発見するよう招かれています。そして教会は、つねに『時のしるし』について吟味し、福音の光のもとにそれを解明する義務を課されています。そうすることによって教会は、現世と来世のいのちの意味、また両者の相互関係について人間が抱く永久の疑問に対し、それぞれの世代に適した方法をもって応えることができるのです。

福音を信じる私達に、神様が差し出す『時のしるし』と『希望のしるし』には次のようなものがあげられます。『戦争という惨劇』における希望のしるし、『経済優先の社会環境』における、希望のしるし、『苦しい環境の下で生きる大勢の兄弟姉妹』と希望のしるし、です。

さまざまな環境下にあり、自由を奪われたり、拘留されたりしている人達、病者の方達、若者達、移住者の方達、高齢者、そして数十億を超える貧しい人達は、今、それぞれのおかれた厳しい環境の中で希望を必要としています。聖年の間に私達は、苦しい境遇のもとで生きる大勢の兄弟姉妹にとっての、確かな希望のしるしとなるよう求められています。

希望を求める訴え：

教皇フランシスコは、富を有している人に対して、そして富裕国に対して、『富を所有している人は寛大でなければならず、自分の兄弟である困窮者達の顔に目を向けなければなりません』と訴えます。そして、私達キリスト教信者に対しては、『キリスト者の共同体にはつねに、もっとも弱い立場の人々の権利を守る用意がなければなりません。よりよい生活への希望をだれ一人奪われることのないよう、広い心で歓待の扉を開け放ってください』と訴えます。

希望に錨を下ろして：

希望は、信仰と愛とともに、キリスト者の生き方の本質を表す三つの「対神徳」です。そのうちの希望は信仰者の生き方の方向と目的を示す指南役であり、『私達は永遠のいのちを信じます』という私達の信仰告白を基盤としています。神という基礎と永遠のいのちに対する希望が欠ける時、人間の尊厳は傷つけられ、生と死、罪と苦しみの謎が解けないまま、人間は絶望に陥ってしまいます。

神の母であるマリア様は、希望のもっとも偉大なあかし人です。マリア様の生涯を思い起す時、希望は中身のない楽観主義ではなく、生の現実の中の恵みの賜物であることがわかります。シメオンの預言を受け止め、十字架のもとで、無実のイエスが苦しみ死ぬのを見ている間、すさまじい苦しみにありながらも、神様に対する希望と信頼を失うことなく、「はい」と言い続けられたのです。そして愛をもってささげられた激しい苦悩にさいなまれる中で、私達の母、希望の母となられたのです。

神様の愛が、聖霊の力によってイエス様を復活させ、その人性を私達の救いのための永遠の初穂とされました。私達キリスト者の希望はここにあるのです。私達はイエス様のおかげで、洗礼の時に授けられた恵みによって、いのちは取り上げられるのではなく、変容されるという確信を与えられています。私達は死後、神様の限らない愛を観想し、イエス様と共にある永遠のいのちに参与するのです。

永遠のいのちと結びついたもう一つの現実として、私達の生の終わりと世の終わりにある、神の審判があります。私達は人生を総括する時に備え、十分な自覚をもって真剣に準備する必要があります。大切なことは、愛である神の審判は愛に基づくものであり、私達

が『もっとも貧しい人に対して、どれだけの愛を実践したか、しなかったか』のみに基づいて下されるということです。審判の時、私達は、世と私達の中にあるすべての悪に打ち勝つキリストの愛の力を経験し、受け入れます。愛の苦しみは私達の救いと喜びとなるのです。

神様の審判の時には、私達がこの世において犯した罪は全てあらわになります。神の愛へと決定的に過ぎ越せるよう、私達は犯した罪から清められなければなりません。そのために、神様はゆるしの秘跡と免償を準備してくださいました。

ゆるしの秘跡は、神が私達の罪を消し去ってくださることを確約しています。秘跡による神様との和解は、靈的機会であるだけでなく、それぞれの信仰の歩みにおける、決定的で本質的、かつ不可欠な一歩です。ゆるしの秘跡において、神様は私達の罪を滅ぼし、私達の心をいやし、私達を起き上がらせて抱きしめ、その優しくいつくしみに満ちたみ顔を示してくださるのです。

しかしながら罪は「痕跡を残し」、結果を伴います。罪は外に影響を与えるだけでなく、内にも影響を及ぼします。小罪も含めたすべての罪は被造物へのよこしまな愛着を起こさせ、人はこの愛着から、この世で、あるいは死後、清められなければなりません。悪に引き寄せられる弱い私達の人間性には、「罪の残滓」がとどまるのです。この罪の残滓が、免償によって、どんな場合もキリストの恵みのおかげで取り除かれるのです。免償は神のあわれみがいかに無限であるかを私達に現します。

免償（神のゆるし）：

心から痛悔し、罪の傾きから離れ、愛の精神に動かされ、聖年の間、ゆるしの秘跡によって清められ、聖体に力づけられ、教皇の意向に従って祈る信者は、教会の宝から全免償が与えられ、その罪の赦免とゆるしが与えられます。ゆるしの秘跡によって、すでに罪科としては赦免された罪に対する『有限の罰』の神の前におけるゆるしを、免償によって受けることができます。

聖年の免償を受けるには、大きく分けて①聖なる巡礼、②巡礼所への聖なる訪問、③慈善と償いのわざ、という方法がありますが、心から痛悔し、それぞれの立場でできること

を探し求めれば、聖年の全免償を頂くことができます。

免償は、代願のかたちで、煉獄の靈魂に対して与えることも可能です。免償は、限界を知らない神のゆるしの十全さを現すもので、特に聖年の免償は、祈りの力によって、先に召された人々が満ち足りたあわれみに与えるよう、特別な方法で彼らのためにも意図されているのです。

私達は、ゆるしで満たされた体験を経ると、心と思いは、ゆるすことへと必ず向かいます。ゆるすことは未来を変え、恨みも憎悪も復讐心も持たない、違う生き方を可能にします。ゆるすことで未来が照らされ、より穏やかな目で、過去を見つめられるようになるのです。

教皇フランシスコ 2025年聖年のための祈り：

聖年は、ついでることのない希望、神への希望を際立たせる聖なる年です。この聖年が、教会と社会とに、人間どうしのかかわりに、国際関係に、すべての人の尊厳の促進に、被造物の保護に、なくてはならない信頼を取り戻せるよう、私達を助けてくれますように。

信じる者のあかしが、この世におけるまことの希望のパン種となり、新しい天と新しい地を告げるものとなりますように。

希望が、私達を通して、それを望む人たちに浸透していきますように。

私達の生き方が、彼らに「主を待ち望め、雄々しくあれ、心を強くせよ。主を待ち望め」（詩編 27・14）と語りかけるものとなりますように。

主イエス・キリストの再臨を信頼のうちに待ちながら、私達の今が希望の力で満たされますように。

(注) 教皇フランシスコの2025年の通常聖年交付の大勅書『希望を欺かない』（カトリック中央協議会発行）をテキストとして実施した読書会の要約です。できるだけ上記テキストに沿った形で要約を作成しましたが、より理解やすくなることを期待し、一部、加筆、修正されています。文責者の誤解、又は理解不足で不適切な理解や表現があるかもしれません。ご容赦いただきますようお願いいたします。

† サモア～主に呼ばれて (41) †

正月はのんびりと日本で過ごして、1月22日にサモアに向けて成田を飛び立ちました。帰りもフライトの都合で、ニュージーランドのオークランドで1泊です。

1月23日にオークランドに到着し、シスターが迎えに来てくれました。今回も宿泊先は修道院です。女子修道会なので、男性は神父様くらいしか泊まれないのですが、特例です。あまり覚えていませんが、部屋にシャワーもトイレもあったように思います。

朝に着いたので少し修道院でゆっくりしたあと、オークランドで語学研修をしている、私の1年後輩の候補生二人に会いに出かけました。街の中にある公園に近い語学学校で勉強していたので、公園で話をしました。私が最初にオーストラリアに向かうときに、成田まで見送りに来てくれた時以来なので、1年4か月ぶりでした。

この二人はアジアに派遣されることを希望していました。その後、一人はフィリピンに、もう一人はカンボジアに派遣されたあと、ベトナムに派遣され、帰国後はJ L M Mで事務局長になり、今も事務局長をしています。

翌日の午前オークランドを出発しました。1月24日にニュージーランドを出国したのですが、日付変更線を越えたので1日戻り、23日にサモアに到着しました。帰国する日は知らせてあったので、修道院のシスターが迎えに来てくれました。

学校のボランティアハウスの建て替えがあるので、ぎりぎりに帰国するように言われていました。この日は木曜日で、翌週の月曜日から学校が始まるため、日本からの乗り継ぎを考えるとこの飛行機がぎりぎりでした。学校に着くと、ボランティアハウスは工事中のため、教室に寝ることになりました。ボランティアハウスを建築してくれているニュージーランド人のボランティアと一緒に教室のベッドで寝ました。

翌朝起きようとしたら、発熱していました。日本で風邪をもらったのか、疲れがでたのかわかりませんが、2、3日寝込んでしまいました。

月曜日から学校が始まるので、土曜日にはまだ完成していないボランティアハウスに移りました。12月のサイクロンの影響でボランティアの出発も遅れたため、少し工期が後ろ倒しになってしまったようです。完成していないのですが、床にビニールが貼っていないとか、ドアのノブが取り付けられていないとかというちょっとしたことが終わっていないだけで、とりあえず寝ることはできます。残りは学校の用務員をしている人が少しずつやってくれることになりました。日曜日にはすっかりベッドなども片付けられて、教室は新学期に生徒を迎え入れられるようになりました。

ボランティアも新しいメンバーが加わりました。オーストラリアの高校で数学の先生をし、定年退職してボランティアとして来た、パトリック。シドニーの少し北にある市から来たそうです。アメリカの大学を卒業してピースコー(Peace Corps)という日本の青年海外協力隊のようなものから来たダン。ダンはミネソタ州から来ています。ミネソタ州は五大湖の南東にあり、カナダと国境を接しています。カナダのトロントからボランティアで来たミッシェルの3人が新しく来ました。

パトリックとミッシェルは、カトリックです。ダンはルーテル教会と聞きました。後は、去年から引き続きのアメリカのピースコーのロビンと私がボランティアです。ロビンはワシントン州から来ています。彼女もカトリックではありません。ピースコーの二人はカトリックではないのですが、私たち同様毎週ミサに与っていました。地域に溶け込むようにとミサに与っていたのでしょうか。

1961年にケネディ大統領がPeace Corps(ピースコー)をアメリカで作り、日本がそれをまねて青年海外協力隊を1965年に始めました。アメリカは140か国以上に17万人が派遣されています。日本は、90か国以上に4万5千人以上が派遣されています。

見沼区 齊藤

🍀 おおみや教会通信はカトリック大宮教会のHP (<https://catholic-omiya.org>) でご覧になれます。
* ご意見や投稿(本などの感想、特集してほしいことなど)を募集しています。

FAX か郵送で受け付けています

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町2丁目350 FAX 048-641-2724

カトリック大宮教会 広報部宛

* おおみや教会通信 8月号は8/17発行予定、原稿締め切り8/3

